

2013年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、極うずは平年より強く、中緯度帯は広く正偏差が分布し、正の北極振動が明瞭だった。大西洋北部とベーリング海からアラスカの南は顕著な正偏差、ヨーロッパ中部、日本付近、カナダ東部では負偏差となった。シベリア高気圧は東への張り出しが平年より弱かった。日本付近から太平洋にかけては亜熱帯ジェット気流が平年の位置から南偏した。寒帯前線ジェット気流は全般に明瞭だった。

熱帯の対流活動は、インド洋赤道域、ベンガル湾、インドネシア付近からオーストラリア北部、南米北部で平年より活発、フィリピンの東海上で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は月の前半に南米からインドネシア付近を東進し、その後、不明瞭となった。対流圏下層の赤道域では太平洋西部で東風偏差が卓越した。対流圏上層ではアジア南部から日本付近にかけて波列パターンが見られ、日本付近は低気圧性循環偏差となった。南方振動指数は+0.8だった。

世界の天候

2013年11月の世界の月平均気温偏差は+0.31°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。11月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.68°C/100年（速報値）である。

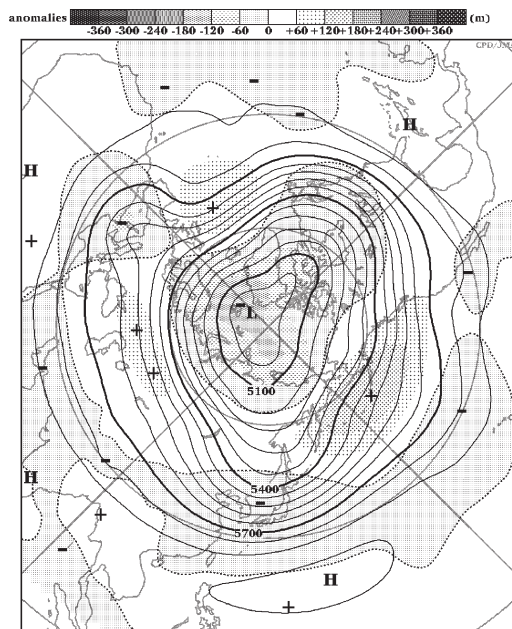
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- シベリア南部及びその周辺では異常高温となった。
- ヨーロッパ西部及びその周辺では異常多雨となった。
- メキシコ及びその周辺では異常多雨となった。

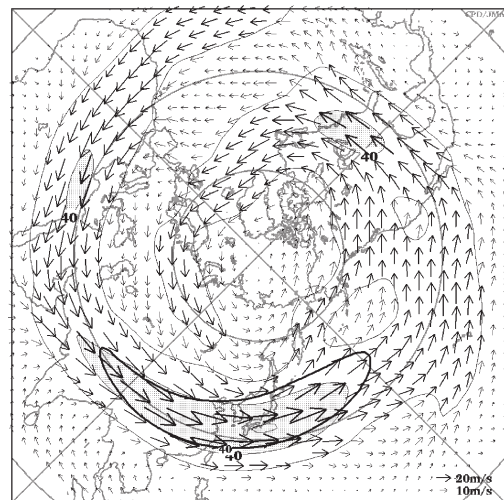
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

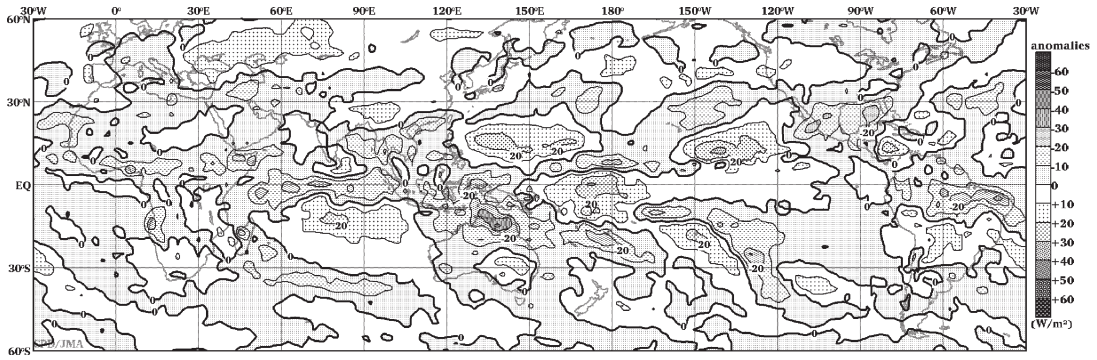


2013年11月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。

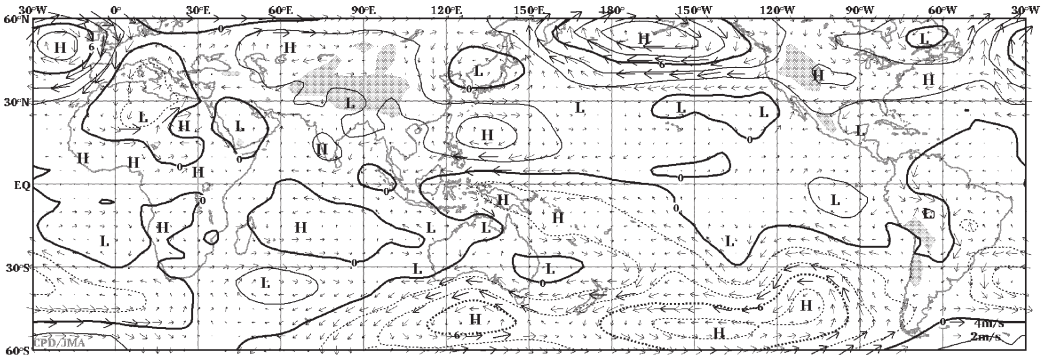


2013年11月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

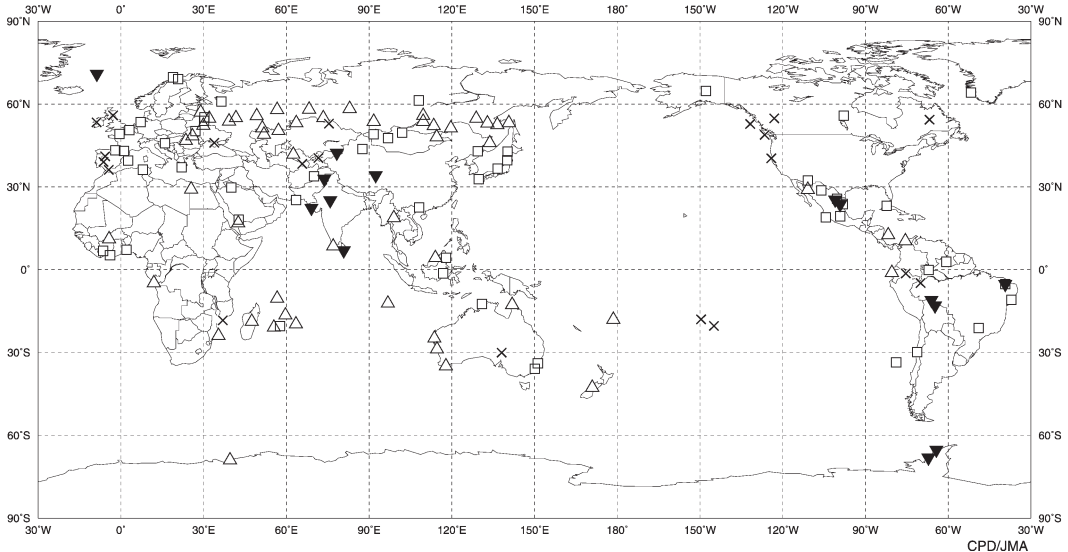
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2013年11月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年11月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2013年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。